

2024年1月14日(日) 第二礼拝 「箱舟に入りなさい」創世記7章1-4.16節

神様はノアに箱舟を造るように指示し、その箱舟に入りなさいと言われました。

第一番目、箱舟は何でしょうか？箱舟は水から保護するため、内側と外側を瀝青で覆いました。「覆う」とはヘブル語で「カパール」です。アダムとエバの目が開いた時、彼らは自らの善悪の基準によって互いに非難し、いちじくの葉で腰を覆いました。その葉が枯れると、また彼らの恥があらわになり、互いに非難し合います。そこで、神様は小羊をほふり、血を流し、その毛皮で彼らの恥を覆ってあげました。これが義の服「カパール」です。イエス様は十字架で血を流され、私たちの義の服となってくださいました。カインは自分の義を誇り、神様にもそれを強要しました。アベルは羊をほふって血を流し、自分の罪を覆ってくださる神様に礼拝しました。そのアベルの捧げものの上に聖霊の火がくだりました。そこで、カインはアベルを妬み、殺してしまいます。そして、カインは逃げて都市(ピラミッド型の階級社会)を造りあげました。それとは違い、セツとその子孫は礼拝者として歩みます。その子孫エノクは65歳でメトシェラを産み、「彼が死ぬ時、天から水が落ちる」という警告を受けます。その後300年間神様と共に歩み、神様はエノクを天に引き上げました。地には不法がはびこっていました。そんな中、神様はノアに大きな箱舟を造らせませす。そこに、きよい動物を7つがいつ、きよくない動物を1つがいつ入れました。きよい動物はいけにえを捧げるためのものです。「7」は完全数、「7つがいつ」とはいくらでも礼拝を捧げるためです。箱舟はイエス様の血潮と聖霊の油で覆われ、罪の赦しと救いを与えるものなのです。

第二番目、箱舟に入りなさい。この「入る」とはヘブル語で「来る、来なさい」という意味で、「疲れた者、この世で苦しんでいる者よ、来なさい」ということです。箱舟にはノアの家族と種類ごとの動物が入り、滅びから救い出されました。この箱舟とはイエス・キリストです。イエス様だけが私たちの救いです。「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。」(ヨハネ 3:17)

第三番目、この箱舟の門が閉ざされるまで7日の猶予がありました。神様は、人々が滅びることなく、悔い改めて救われることを願っておられたのです。しかし、7日後この箱舟の門は閉ざされました。7日間とは神様の忍耐の期間、私たちの悔い改めの期間です。悔い改めるなら、神様は私たちを救いの箱舟に入れてくださいます。箱舟が瀝青で覆われたように、イエス様の血潮と聖霊の油で私たちを覆い、救ってくださいます。また、箱舟に入っていた期間は恵みを学ぶ期間でした。箱舟の生活でノアの家族は神様の赦しの素晴らしさを学びました。箱舟から出た後、ノアは主への祭壇を築き、神様は虹の契約を結んでくださいました。その後、ノアがお酒を飲んで裸になり、息子ハムはその父親の恥を皆にばらします。しかし、セムとヤベテは父を覆ってあげました。これが「カパール」です。自分の義を立てたハムの子孫からニムロデが生まれ、神様に反逆し、人間の力を誇る「バベルの塔」が築かれました。ですから、私たちは自分の義を求めず、悔い改めて救いの箱舟に入りましょう。アーメン！